

みなさんが、もし一人で家にいるとき、地しんがおきたらどうしますか。みやびさんがとった行動を読んで考えてみましょう。

今日はるすばん。外はもうくらくなくなってきたのに、お母さんはまだ帰ってきません。

そのときです。きゅうに目の前のテーブルがぐらぐらしはじめました。



みやびは、いそいでテーブルの下に入って、テーブルの足につかまりました。大きなゆれは、なかなかおさまりません。食器がわれる音がして、家の電気が全部きえてしまいました。



やがて、ゆれがおさまると、みやびはとてもふあんになりました。ゆかの上にもものがおちていますが、家の中もくらくてよく分かりません。自分の体を見るとどこもけがをしてはいないのでほっとしました。

(どうしたらいいだろう……。あっ、そうだ!)

みやびは、お母さんがいつも台所で聞いていたラジオをさがして、スイッチを入れました。すごく大きな地しんで、ラジオでは、「よしんに気をつけること」と「つなみが来るかもしれないので海や川のそばに近づかないこと」をよびかけていました。

「地しんが来たら、一人でも気をつけて高台にある小学校

にひなんしよう。」と家族で話し合っていたことを思い出しました。地いきのくんれんで、近所の人といっしょにひなんしたことも思い出しました。



いつもげんかんのそばにおいてあるかい中電とうをもち、ぼうしをかぶり、自分のぼうさいリュックをせおって、ドアをあけると道やたてものの様子に気をつけながら外に出て、歩きはじめました。

「みやびくん、ぶじだったんだ。おじさんといっしょに小学校にひなんしよう。」と、となりのおじさんが話しかけてくれました。

近所の人たちも、お年よりの人や一人ぐらしの人を世話しながら、小学校にむかっていた。あたりはすっかりくらくなくなると、遠くからひなんをよびかけるサイレンの音がひびいていました。

学校につくと、体育館で先にひなんしていた友だちに会えてほっとしました。やがて、お母さんがむかえにきました。



みやびさんはぶじにひなんできました。みやびさんのしたことで、よかったことはどんなことでしょうか？